



東側から望む矢巾新附属病院の完成予想図

主な内容

特集——「岩手医科大学における臨床遺伝学のメッカとして」
臨床遺伝学科 教授 福島 明宗

《平成25年度決算》

トピックス——平成26年度高度看護研修センター
認定看護師教育課程開講式が行われました

フリーページ——すこやかスポット医学講座No.49「緩和ケアについて」
緩和医療学科 教授 木村 祐輔

岩手医科大学における 臨床遺伝学のメッカとして

臨床遺伝学科 教授 福島 明宗



2012年7月1日に医学部の新たな学科である臨床遺伝学科、そして附属病院の新たな診療科である臨床遺伝科が立ち上がってから、既に2年が経過いたしました。2014年8月からの母体血無侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）の導入に関する社会問題、さらに各種遺伝情報の回付に関する社会問題等、全くの偶然ではありますが当科開設時は日本における臨床遺伝学の分野が大きく変革する時期と重なることになりました。

当科では、そのほとんどが自費診療であり、また診療時間も1ケースあたり最低1時間を基本とする特殊な診療体制であるにも関わらず、昨年の外来受診者数は313人と前年のほぼ3倍になっております。また当科のような遺伝カウンセリングを専門に行っている診療部門が全国的にも少ないことから、県内各地はもとより近隣各県および首都圏からの来院者も増加してきております。主な診療内容および研究内容は以下の通りです。

■ 主な診療内容

- 1) 周産期分野における各種出生前検査・診断と遺伝カウンセリング
- 2) 家族（遺伝）性腫瘍に関わる遺伝子検査と遺伝カウンセリング
- 3) 先天性難聴に関わる遺伝子検査と遺伝カウンセリング
- 4) 各診療科において実施される遺伝子検査に関わる遺伝カウンセリング
- 5) 各種臨床研究において、その実施が求められる場合での遺伝カウンセリング
- 6) 妊娠とお薬相談室（附属病院薬剤部と共同）

■ 主な研究内容

- 1) 遺伝情報の回付に関する研究
- 2) 家系図の自動作成に関する研究

さて遺伝診療のうち、特に遺伝カウンセリングにおいて必要不可欠な専門職として、日本人類遺伝学会認定の遺伝カウンセラー（認定遺伝カウンセラー）があります。当学科では開設以来、広く全国にその人材を求めておりましたが、この4月より1名が着任いたしております。なかなかなじみの少ない職種でありますので、この紙面をお借りして本人よりご紹介申し上げます。



認定遺伝カウンセラーについて

臨床遺伝学科 助教 山本 佳世乃



2014年4月1日より臨床遺伝学科に認定遺伝カウンセラーとして着任しました。耳慣れない方も多いと思いますので、今回この場をお借りしまして、認定遺伝カウンセラーの概要と実際に担当している職務を紹介させていただきたいと思います。

認定遺伝カウンセラーとは、日本遺伝カウンセリング学会と日本人類遺伝学会が共同認定する資格です。平成17年4月1日より認定遺伝カウンセラー制度が正式にスタートしました。現在は、京都大学大学院、信州大学大学院、お茶の水女子大学大学院、近畿大学大学院、東京女子医科大学大学院など、全国11大学に認定遺伝カウンセラー認定養成課程が開設されており、年々その数が増加しています。養成校では、人類遺伝学、遺伝医学、心理学、倫理学などの専門科目を履修するとともに、医療機関での実習を行っています。わが国には151名の認定遺伝カウンセラーがおり、アメリカでは2,000名以上の認定遺伝カウンセラーが医療・教育・行政等の分野で活躍しています。

遺伝カウンセラーは、専門の医師や看護師、臨床心理士はじめ医療スタッフの皆さんと協同して遺伝カウンセリングを行うことを主とする職種です。遺伝カウ

ンセリングでは遺伝性疾患に関する悩みをもつクライアントに対して、疾患を理解するための遺伝学的情報をわかりやすく提供し、その情報を一人ひとりのクライアントが自身の生活や人生にどのように役立てていけば良いかの道筋を見つけることをサポートしていきます。

また前職が養成校の教員であったことを生かし、各種ガイドラインを遵守した遺伝子診断の倫理審査書類の作成や、先生方の診療や研究に必要な論文検索とまとめ作成、研究者として臨床の場に即した研究の遂行などを行っています。

次世代シーケンサーの開発により個人ゲノムが数万円で解読できる時代がすぐそこに来ており、疾患と遺伝子との関連が次々と明らかになっています。多くの医学領域で遺伝情報を扱う機会が増えていくことが予測されます。そして、女優アンジェリーナ・ジョリーさんの家族性乳がんの話題やNIPTの導入など、遺伝情報は日常生活のなかでもますます身近な存在になっています。命や人生に関わる、けれども理解が難しい情報であるからこそ、じっくりと時間をかけられる遺伝カウンセリングの場を利用いただければ幸いです。

岩手医科大学募金状況報告 ～皆様のご厚志により支えられています～

【総合移転整備事業募金】

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

尚、平成26年5月31日をもって総合移転整備事業募金は終了し、6月1日より総合移転整備事業を包括した「岩手医科大学創立120周年記念事業募金」として募集することとなりました。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜われますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は28回目の御芳名紹介です。

(平成26年5月1日～平成26年5月31日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

●会社・法人等（敬称略）

<30,000,000円> 株式会社こずかたサービス（岩手県）

●個人等（敬称略）

<ご芳名のみ記載> 高橋 景子（一般）

(平成26年5月31日現在)

これまでの募金累計額	区 分	申込件数	募金金額（円）
	主陸会	488	415,672,000
	在学生父母	196	174,190,000
	役員・名誉教授	41	72,910,000
	教職員	125	20,585,000
	在学生	1	100,000
	一般	133	471,142,922
	計	984	1,154,599,922

平成25年度決算

社会保障と税の一体改革に関連した消費税の段階的増税などにより、本学の附属病院移転計画を含めた財政への影響が懸念される中、財政基盤の更なる強化に努めなければなりません。

このような環境下において、本学は更なる教育・研究・医療の活性化と質的向上を目指し、各事業を推進しています。主に、矢巾キャンパスに歯学部臨床基礎実習室を整備し、医療関係では中央臨床検査部の機器更新や手術用ロボット等の導入を行いました。また、災害復興関連事業では、従前からの事業に加え、新たにいわてこどもケアセンターを開設し、多様な事業を推進しました。

平成25年度消費収支決算では、医療収入などが増加しましたが、反面、人件費、医療経費及び業務委託費などの増加に伴い19億1,735万円の支出超過額を計上しました。

1. 消費収支の概要

(1) 消費収入

消費収入の合計額445億4,607万円は、前年度比22億8,083万円(5.4%)増加、予算比では6億1,968万円(1.41%)上回りました。

- ① 学生生徒等納付金81億4,126万円は、前年度比2億7,855万円(3.5%)増加しました。主な増加要因は、医学部定員増の学年進行によるものです。
- ② 医療収入321億9,101万円は、前年度比9億5,399万円(3.1%)増加しました。附属病院医科の医療収入は、前年度比9億9,953万円(4.3%)の増加、歯科医療センターは6,234万円(5.5%)の増加、循環器医療センターは1億17万円(2.1%)の減少、花巻温泉病院は6,203万円(4.0%)の減少、P E T・リニアック先端医療センターは5,432万円(17.5%)の増加となりました。
- ③ 補助金合計額は、49億5,255万円で前年度比1億3,867万円(2.7%)減少しました。私立大学等経常費補助金21億5,052万円は、前年度比1億131万円(4.9%)増加、その他の国庫補助金では、次世代医療研究開発拠点形成事業費補助金(いわて東北メディカル・メガバンク機構)10億6,204万円、大学改革推進等補助金(災害時地域医療支援教育センター)1億7,034万円、私立学校施設整備費補助金(歯学部)9,569万円、医師臨床研修費補助金1,908万円、歯科医師臨床研修費補助金4,678万円等で合計14億

8,509万円でした。また、地方公共団体補助金は、ドクターヘリ運航事業費補助金2億868万円、革新的医療機器等開発事業費補助金1億9,651万円等で合計13億1,694万円となり、前年度比3億9,982万円(23.3%)減少しました。

(2) 消費支出

消費支出の合計額464億6,342万円は、前年度比24億3,520万円(5.5%)増加、予算比では6億6,848万円(1.5%)上回りました。

- ① 人件費208億5,397万円は、前年度比4億5,526万円(2.2%)増加しました。給与、賞与、所定福利費の合計187億5,768万円は、前年度比4億9,099万円(2.7%)増加し、退職金と退職給与引当金繰入額、退職給与引当金特別繰入額の合計20億6,543万円は、前年度比3,573万円(1.7%)減少しました。
- ② 医療経費130億404万円は、前年度比7億1,901万円(5.9%)増加しました。医薬品費は、前年度比5億55万円(7.7%)の増加、医療材料費は2億1,477万円(3.8%)の増加、給食材料費は369万円(1.7%)増加しました。医療収入に対する医療経費割合は40.4%となり、前年度の39.3%を1.1%上回りました。
- ③ 光熱水費は、重油料4億1,524万円、ガス料2,222万円、電気料5億6,668万円、水道料1億8,787万円、合計11億9,201万円となり前年度比9,902万円(9.1%)増加しました。
- ④ 修繕費は、施設修繕費2億4,820万円、機器備品修繕費2億4,295万円、合計4億9,115万円となり前年度比1,665万円(3.5%)増加しました。
- ⑤ 消耗品費10億5,878万円は、前年度比7,431万円(7.5%)増加しました。
- ⑥ 印刷製本費1億4,181万円は、前年度比1,097万円(8.4%)増加しました。
- ⑦ 業務委託費33億6,336万円は、前年度比4億2,044万円(14.3%)増加しました。部門別では、附属病院医科15億7,157万円、歯科医療センター1億101万円、循環器医療センター3億988万円、花巻温泉病院1億4,029万円、その他12億4,061万円です。
- ⑧ 公租公課1億1,220万円は、消費税6,983万円、法人税2,049万円、事業税928万円、固定資産税・都市計画税1,068万円等です。
- ⑨ 学生福利費2,763万円は、学友会館諸経費1,359万円、その他健康診断経費・予防接種経費等です。
- ⑩ 職員福利費1億5,670万円は、健康診断諸経費2,982万円、保育園運営管理委託料1,838万円等です。
- ⑪ 減価償却額36億9,004万円は、前年度より3億8,142万円増加しました。
- ⑫ 資産処分差額1億4,959万円は、耐用年数が経過した資産未償却額の除却等です。

2. 資本収支の概要

(1) 資産の部

- ① 施設関係4億8,994万円は、建物4億5,876万円、構築物2,307万円、建設仮勘定811万円です。
- ② 設備関係25億993万円は、教育研究用機器備品24億8,462万円等です。
- ③ 施設拡充引当特定資産として45億円を積み立てました。
- ④ 貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫分であり、医薬品・医療材料7億106万円、歯科貴金属861万円、合計7億967万円です。

(2) 負債、基本金、消費収支差額の部

- ① 前受金残高15億5,512万円は、平成26年度入学生の学生生徒等納付金等です。
- ② 預り金残高6億3,387万円は、源泉所得税5,573万円、県市町村民税1億201万円、私学共済掛金1億1,385万円等です。
- ③ 基本金は59億7,028万円を組入れし、1,006億1,271万円となりました。
- ④ 消費支出超過額19億1,735万円と前年度繰越消費支出超過額172億9,526万円を合計した翌年度繰越消費支出超過額は、192億1,261万円となりました。
- ⑤ 自己資金（基本金＋翌年度繰越消費支出超過額）は、前年度より40億5,293万円増加し、814億10万円となりました。

平成25年度 消費収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	8,141,261	人件費	20,853,978
手数料	226,323	医療経費	13,004,045
医療収入	32,191,017	消耗品費	1,058,788
寄付金	2,576,135	光熱水費	1,192,018
補助金	4,952,552	修繕費	491,154
資産運用収入	213,682	業務委託費	3,363,360
事業収入	1,459,005	福利費	184,338
雑収入	756,382	減価償却額	3,690,046
帰属収入合計	50,516,357	資産処分差額	149,591
基本金組入額合計	△ 5,970,284	その他の経費	2,476,107
消費収入の部合計	44,546,073		
当年度消費支出超過額	1,917,352	消費支出の部合計	46,463,425

平成25年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	8,141,261	人件費支出	20,220,809
手数料収入	226,323	諸経費支出	22,159,039
寄付金収入	2,466,240	施設関係支出	489,943
補助金収入	4,952,552	設備関係支出	2,509,932
資産運用収入	213,682	資産運用支出	4,500,100
事業収入	1,459,005	その他の支出	5,746,241
医療収入	32,191,017	資金支出調整勘定	△ 4,096,833
雑収入	756,382	次年度繰越支払資金	14,779,908
前受金収入	1,555,123		
その他の収入	10,328,451		
資金収入調整勘定	△ 8,970,870		
前年度繰越支払資金	12,989,973		
収入の部合計	66,309,139	支出の部合計	66,309,139

貸借対照表 平成26年3月31日

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	72,484,894	固定負債	8,504,692
有形固定資産	55,560,316	流動負債	5,676,484
その他の固定資産	16,924,578	負債の部合計	14,181,176
流動資産	23,096,386	基本金	100,612,717
		翌年度繰越消費支出超過額	△ 19,212,613
資産の部合計	95,581,280	負債・基本金・消費収支差額の部合計	95,581,280

平成26年度高度看護研修センター認定 看護師教育課程開講式が行われました

6月2日（月）、創立60周年記念館8階研修室において、附属病院高度看護研修センター認定看護師教育課程（緩和ケア分野）開講式が執り行われました。

当センターは、緩和ケア分野において、専門性を備えた認定看護師の養成を目的として、平成24年6月に開講し、今回で3年目です。



式では、寺山靖夫センター長から「一日も早く緩和ケア認定看護師として、各自の臨床現場において、緩和ケア提供するチームの重要な一員として、患者さんの心の支え・患者さんに希望の光を与える存在として活躍していただきたい」との式辞があり、続いて研修生16名を代表して大岩千晴さんが宣誓を行いました。

岩手看護短期大学の設置者変更 に係る記者会見を行いました

学校法人岩手医科大学並びに学校法人岩手女子奨学会は、学校法人岩手女子奨学会が設置運営する岩手看護短期大学の設置者を、学校法人岩手医科大学に変更することについて合意に至りました。

6月3日（火）、本法人小川理事長及び学校法人岩手女子奨学会澤野理事長による記者会見が行われ、設置者変更に係る経緯と今後の方針を発表しました。

また、これに併せて、本学に当該短期大学を母体とした4年制看護学部を設置する準備を進めていくことも発表しました。



平成26年度感染対策講習会 が行われました

平成26年度の感染対策講習会が、6月5日（木）から7日間にわたり歯学部4階講堂において行われました（本開催1回以外は録画映像による講習会）。

初日の本開催では、弘前大学医学部附属病院感染制御センターの萱場広之センター長を講師に迎えて「感染制御ネットワークの現状と未来」と題した講演が行われ、総勢約2,000名の職員が参加しました。

参加者は熱心に聴講し、感染対策に関する知識を深めていました。



「ウェルかむ2014～歯と口は 健康・元気の源だ～」が行われました

6月6日（金）、歯科医療センターにおいて、歯と口の衛生週間にちなんだイベント「ウェルかむ2014～歯と口は健康・元気の源だ～」が行われました。

会場には、各診療科によるパネル展示コーナーやストレスマーカー測定、栄養部による試食コーナー、歯科材料で作成したキーホルダーのプレゼントコーナーなどが設けられ、一般市民の方々など総勢507名の来場者が歯の健康に関する知識を深めました。

また、同日に「お口の健康セミナー」が開催され、CAD/CAMやいびき歯ぎしり等のお口の病気・治療法について多くの方に情報を発信する機会となりました。



平成26年度教養教育センター 野外活動が行われました



平成26年度教養教育センター野外活動が、6月7日（土）に安比高原で行われ、3学部第1学年の学生と教職員が参加しました。

この野外活動は、野外で自然に親しむとともに、学友や教職員との交流を深めることを目的として毎年行われており、学生は、マウンテンボード、ピザ作り体験、ブナの森探検、山菜採りハイキングなどを体験し、大自然に親しむとともに、学友や教職員との交流を深めていました。



矢巾キャンパスマルチメディア 教育研究棟で防火防災訓練が 行われました

6月23日（月）、矢巾キャンパスマルチメディア教育研究棟で、防火防災訓練が行われました。

三陸沖を震源とする震度6強の揺れにより、マルチメディア教育研究棟1階ロビー脇から出火したことを想定行われました。

災害時地域医療支援教育センター及びこどもケアセンターのスタッフを中心に、緊急時の患者さんの避難誘導の動きなどを確認しました。



ライオンズクラブ国際協会様 から岩手医大眼球銀行に寄付 金が贈呈されました

6月26日（木）、ライオンズクラブ国際協会332-B地区の地区ガバナー佐々木賢治様が来学し、本学眼球銀行（総裁：小川彰学長）に1,615,635円を寄付され、小川学長から感謝状が贈呈されました。

同協会から毎年いただいている寄付金は、アイバンクの啓発活動や角膜移植に使用される角膜摘出の費用などに充てられ、一人でも多くの方が光を取り戻すために活用されています。ここにライオンズクラブ国際協会様には、心から御礼申し上げます。



第77回解剖体慰霊祭が行わ れました

第77回解剖体慰霊祭が、6月28日（土）矢巾キャンパス大堀記念講堂において、小川学長をはじめとする本学教職員・学生とご遺族が参列して厳かに執り行われました。慰霊祭は64霊のご尊名奉読に続いて、小川学長による祭詞、学生を代表して歯学部4年の東山端貴さんから追悼と慰霊のことばが捧げられました。続いて参列者全員で医学・歯学のために貢献された方々に対して感謝するとともに霊の安らかならんことを祈り献花いたしました。

慰霊祭終了後は、生前よりご自分の意思で献体登録され成願された故人への文部科学大臣感謝状伝達式が行われ、ご遺族に感謝状とご遺骨が返還されました。



永年勤続表彰式が行われました

平成26年度の永年勤続者表彰式が、6月24日（火）歯学部4階講堂において行われました。本年度の表彰者は、勤続30年の方が26名、勤続20年の方が46名でした。

式典では、小川理事長より代表者へ表彰状と記念品が授与され、式辞が述べられました。これを受けて菊池初子さんが謝辞を述べ、式典終了後に壇上にて記念撮影を行いました。その後、会場を記念館8階に移して祝賀パーティーが催され、勤続のお祝いをするとともに今後益々のご活躍を祈念し、盛会裡のうちに終了となりました。



勤続 30 年

安保 淳一
安保 友子
牛崎 克哉

小笠原れい子
小山耕太郎
鎌田 彰裕
菊池 初子

菊池 康彦
斎藤 篤
佐々木栄子
佐々木淳子

佐々木琢子
佐藤 孝
菅原 敏子
高橋 真

滝川 康裕
千葉 政司
千葉 幸男
槻木加代子

戸塚 久子
中村 元行
平田久美子
堀内 範子

本館 孝信
八重樫寿美子
柳本 実

計 26 名
(所属・敬称略)



勤続 20 年

青木 玲子
遠藤 友子
及川 栄子
大沼 和美
金澤加津代
鎌田 聖子

嘉村 幸恵
菊池佐知子
姜 美和
久保田好光
熊谷 佑子
金 由香
今野 早里

齊藤麻知子
櫻井 滋
佐々木 敦
佐藤 和朗
佐藤 公俊
佐藤真由美
猿舘 美香

菅原 敦子
杉山 芳樹
清野留理子
平舘 美紀
高橋美千子
高原美智子
武部 純

館林 淑子
田向 信子
千田 里美
千葉 俊美
千葉 晴美
泥崎 聖子
幅野 涉

藤野 靖久
藤原 友昭
星野 正行
細川 幸子
萬徳 孝子
宮 貴子
安ヶ平則也

山内 美奈
山岸 明枝
吉田 紀子
吉田 福子
吉田 理恵

計 46 名
(所属・敬称略)

1. 平成25年度事業報告について

平成25年度事業報告書の内容について承認

2. 平成25年度決算及び監査報告について

平成25年度決算について承認

3. 創立120周年記念事業に伴う寄付金の募集について

創立120周年記念事業募金を募集することについて承認

4. 岩手看護短期大学の受入れ及び看護学部を設置について

学校法人岩手女子奨学会より申し入れのあった岩手看護短期大学の本法人への移管を受け入れるとともに、これを母体とした4年制看護学部を設置することとして、文部科学省への設置認可申請準備を進めることについて承認

5. 寄附行為の変更について

本法人寄附行為第19条第2項に規定する本法人評議員の構成員につ

いて、第1号の理事長が第2号の学長を兼務する場合は定数を減ずることとする規定を追加し、文部科学省に寄附行為変更認可申請することについて承認

6. 任期満了に伴う監事の選任について

監事 池田 克典(新任)

(任期 平成26年8月1日から平成28年7月31日まで)

7. 教員の人事について

医学部睡眠医療学科 教授 櫻井 滋(前 同学科 准教授)

(発令年月日 平成26年7月1日付)

8. 薬学部地域医療薬学科の設置並びに

組織規程等の一部改正について

地域医療の推進と学部教育の連携を担うことを目的として、薬学部地域医療薬学科を設置することについて承認

岩手医科大学報 第454号

発行年月日 平成26年7月31日

発行者 学長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111 (内線7023)

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

編集後記

特集の臨床遺伝学科のご紹介記事にもありますように、個人のゲノム(全DNA配列)の解析が現実的な費用で実施可能な時代が近づいています。最先端の技術が取り入れられていくことで先進的医療が今後益々発達し、私たちの健康の確保に貢献することが期待されます。新附属病院の完成予想図はそんな未来を象徴しているかのようなのです。

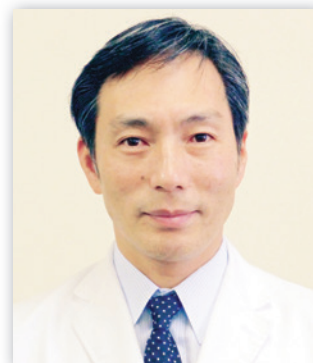
(編集委員 藤本 康之)

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	菊池 初子
影山 雄太	江刺家 和恵
松政 正俊	佐々木 さき子
齋野 朝幸	米澤 裕司
小山 薫	佐々木 忠司
藤本 康之	畠山 正充
佐藤 仁	大須賀 志穂
藤本 康之	武藤 千恵子
成田 欣也	野里 三津子
山尾 寿子	

スポット医学講座

緩和医療学科 教授 木村 祐輔

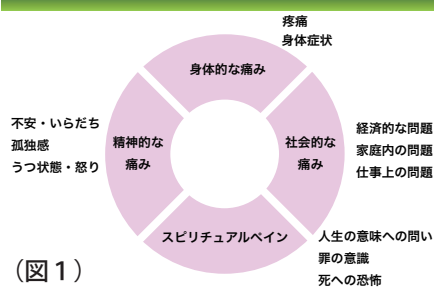


緩和ケアについて

一年間に新たにがん罹患した人が2010年の推計値で初めて80万人を突破したことが、国立がん研究センターの最新統計で明らかになりました。この数は、記録が残る35年前の約4倍であり、この結果から、生涯にがんにかかる確率は男性で60%、女性で45%と試算もされています。残念ながら多くの方にとって、がんは年々とても身近な疾患になって来ています。



全人的苦痛 (total pain)



(図1)

がんに対する治療も日々進歩し、がんを克服して長生きをされる方が増えてきましたが、疾患によっては、あるいは病気の進行によっては、治療にとっても長い時間を要したり、治療が届かなくなり命を落とされる方も少なくありません。多くの方は、がんである事を告げられたときから、命に対する不安を抱えながら治療に向かっていますし、がんが根治したと考えられる時期を過ぎてからも、がんに関わった過去が頭から離れず苦しんでいる方が大勢います。このように、がんをはじめとする生命を脅かす疾患に直面した人に対し、その方の全人的苦痛(図1)に対応し、生活の質を少しでも維持、向上する事を目指して提供される医療が『緩和ケア』です。対象は患者さんご本人のみならず、患者さんを支えるご家族も含みます。

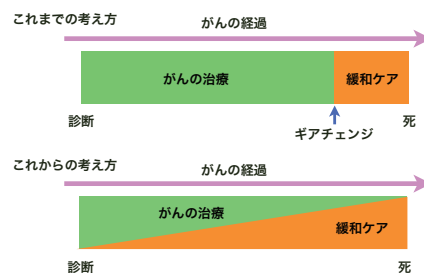
緩和ケア外来



がん治療が届かなくなりつつある方に対して『がんに対する治療をこのまま続けるか?それとも緩和ケアに移行するか?』と問いつける場面に(図2)



がん治療と緩和ケア



遭遇することがあります。確かに、緩和ケアにおいて終末期支援はとても重要ですが、現在では治療の時期によらず緩和ケアは提供されるべきものと考えられており、決して終末期に限定される医療ではありません(図2)。

岩手医科大学附属病院では、平成19年から緩和ケアチームが活動を開始し、現在では様々な専門スタッフが集う総勢20名を超える結束力の強いチームへと成長しました。

開設以来これまでの約6年間に、疼痛をはじめとする症状緩和や、患者さんやご家族の様々な不安への対応、希望する療養場所への地域連携など1200名を超える患者さんの支援に携わってきました。

また、県内の医療機関とも密に連携し、切れ目の無い緩和ケアの提供を目指して活動しています。今後も緩和医療学科が中心となって、緩和ケアの発展のために力を尽くして参ります。皆様よろしくお願いいたします。

緩和ケアチーム

